

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800071		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホームもやいの家うのはな		
所在地	島根県益田市遠田町179-2		
自己評価作成日	平成29年10月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本海を一望し自然の変化を感じられる環境の中で、利用者様の個性と望む暮らし方、活動と休養の調和がとれた生活を送って頂けるよう、「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の法人理念のもと支援に努めている。
 家事を中心とした活動を一人一人の力や興味に合わせて職員と一緒にすることで、やりがいや自信の回復に繋がられるよう努めている。利用者様の歩く力、食べる力を維持していただくため日々取り組んでいる。
 併設のデイサービスや有料老人ホームの利用者様との相互交流が出来るよう図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同グループの建物内で1Fをデイサービス、2Fを有料老人ホーム、3Fがグループホームになっている。3Fの為上り降りには階段やエレベーターの使用が必要で、移動を考えるとやや不利な面もあるが、日本海を一望できる大変いい環境の中にある。施設のあるこの地域一帯は、比較的新しくできた住宅地の為、地域の連帯感が薄く、関係作りには時間を要しているように見受けられるが、年2回お祭りを開催して地域に溶け込むようにグループ全体で取り組んでいる。利用者も職員も全員が女性で、施設内の掲示物や季節の花の飾り方、穏やかな優しい語りかけなどからも、女性らしいゆったりとした雰囲気が感じられる。重度化して外出は難しくなってきたようなが、1、2Fを歩き来してポラティア交流の機会をもったり、他のサービス利用者とのふれあいが利用者の精神面の良い刺激になっているように見受けられる。今後に於いてもこの施設の特徴を生かしたサービスの充実に取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基付き事業所理念を掲げそれを目指して職員個々は自己の目標の達成を目指し活動・努力している。管理者は達成状況を定期的な面接で確認助言を行っている。	法人の理念に基づき事業所目標を4月の作成。職員も個人目標をたて、9月に進捗状況を確認し修正が必要な場合は見直しをして年度末の反省に繋げる形で理念の共有を図っている。目標の設定はやらされた感がないように職員の思いを尊重するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治体のメンバーとして地域の清掃活動に参加している。また、地域の方やボランティアの訪問等により交流が図られている。	新しく開拓された住宅地の為若い方が多く自治会長も毎年変わるため交流は持ちにくい状況があるも、年2回地域の方にも参加を呼びかけ事業所周辺で祭りを開催している。家を回りチラシを配ったりして関係作りに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習・認知症実践者研修生の受け入れをすることで認知症の方への理解やケアについて実際に触れる機会を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活の様子や日々のケアについて又事業所での取り組みなどを報告している。出席された方々と利用者様との交流の機会となっている。	利用者家族、以前の入所者家族、民生委員、公民館長等、市職員の参加で定期に開催。利用者状況や行事や避難訓練の様子等を伝え、地域からの情報を得る機会としている。	出来るだけ多くの関係者の参加を得て会議が開催できるように検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において事業所の現状やサービス提供の取り組みをお伝えしている。事故等の報告を速やかに信頼関係構築に努めている。	市の福祉課に事業所担当ができて毎回運営推進会議に参加を得ている。担当制になったことで、相談ごとなど、何かあった時の窓口として捉えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度計画に位置付けた勉強会や、日々のケアの中でおこった事象についてカンファレンスで理解を深めなどで身体拘束を行わないケアに努めている。	3Fのため非常階段は常時施錠しているが、昼間は玄関の施錠はしていない。エレベーターの利用が主で、1Fのデイサービスが全体の玄関になっており、動きを制限するのではなく出入りの確認を徹底するようにしている。センサーマット等の利用もなく拘束の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し学ぶ機会を設けている。また3ヶ月に1回は日ごろのケア場面を振り返り、自己チェックを行っている。介助方法について話し合う時間を毎日のカンファレンスにて設け意識の共有実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はおられないが、事業所内の勉強会や市が行う研修に参加し制度について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時また改定の際には十分な時間を取り、利用者様・ご家族様に説明をさせて頂き了解を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご本人の思いや生活の様子をお話させていただき、家族様の要望や提案を伺いケアに繋げている。家族会や運営推進会議・「お客様アンケート」にて意見を伺い、運営や日々のケア向上に努めている。	利用者が家族と一緒に食事をする機会を作る目的もあり、家族会を今年度は7月に実施し、12月も予定している。家族アンケートを実施しており、出た意見を廊下に掲示している。日頃の様子はアルバムを作成して面会時に見てもらい意見を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニ会議・GH会議や全体会議にて職員の意見交換を図っている。職員との面談においても意見交換が図られるよう努めている。	管理者は個人面談を年2回、意見が出やすい形で行うようにしている。仕事に対しての思いなど言いにくいことも考慮しており、声掛けするようにしている。業務改善の取り組みとして手順表の見直しにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとり一人の職能や自己の業務目標達成状況、勤務状況を評価し給与面・待遇面に反映させる仕組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量に合わせ法人内外での研修の機会を持っている。研修の内容を会議の中で伝達し個々の知識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム事業所の職員の交流会に参加し、研修・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査・面接時にご本人様の様子や困りごとを出来る限り把握するよう努めている。入居後の生活について本人からの希望を伺い統一した支援を行うことで信頼関係結べるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明時家族様の状況やご本人様への思い・希望を聞き取り、理解しながら対話することで関係作りを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネや病院相談員との情報交換の中でその方にとって一番良い支援となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、家事等を利用者様のできる力に合わせ職員と一緒にすることで達成感や喜び感謝の気持ちを共有できる関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活がより良いものとなるよう家族様に提案もさせていただきながら、一緒に考え支えていける関係となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かつて施設内のデイサービスを利用されていた利用者様が知人の関係を継続できるよう支援している。また、外部から訪問された知人親戚の方達との交流が図られるよう場を設けている。	同施設内のデイサービスの利用者に友人があり会いに行く方がある。ホークダンスやマジック、安来節等デイのボランティアの際には行き来して、馴染みの方と一緒に楽しむ機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や個々の個性に配慮した活動の提供や交流の場作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入居でサービス利用は終了された利用者様の家族様に運営推進会議出席等を頂き、関係を継続させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わっていく中でお客様の生活でのこだわりや優先することなどの情報を把握・共有し思いに沿ったサービスとなるよう努めている。	自分からの訴えが少ない方があり、日頃の関わりの中から何気なく発せられた言葉を記録に残すようにしている。行きたい所、したいことなど考え方のクセを見つけるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで把握できなかった部分について、家族様の面会時やお客様との会話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康観察や過ごし方の様子をメモや特記として記録に残している。細やかな観察を必要とする方には個別の観察メモで把握に強めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスにて利用者様の現状を把握しその方にとっての最善の方法を家族様に相談、提案をさせていただきプランに反映させている。	定期的にモニタリングは実施。家族関係者が話し合いに参加することはあまり多くはないが、面会時や電話等で意見を聞き、職員全員で話し合い介護計画を作成している。	利用者本人に家族関係者の参加を得て介護計画の作成ができるように検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりや実践の様子を生活記録に記入している。その中で気づきや改善工夫の必要のある事柄についてミニ会議で情報共有し、ケア方法の変更や、介護計画の見直しにも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内だけでなく、併設のデイサービスの行事に参加や逆のデイサービスの利用者がグループホームを訪問し交流して帰られるなどされ、両方の職員がその効果を認識し、積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にいる知人・親戚や入所後に親しくなった方たちとの関係を把握し、交流が図られるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望に合わせかかりつけ医や受診方法を決めて頂いている。協力医とは急救な往診や相談に応じて頂いている。	入所時に話をして施設の協力医に変更する方があり、その場合は月2回の往診で対応。家族対応で以前のかかりつけ医を継続する方もある。休日、夜間等の緊急時の指示を得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックにて体調変化への気配りに努め、利用者の状態や対応についてアドバイスや指示を頂き支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療の内容等主治医の説明には家族様と一緒に伺うこともあり、本人にとって最良の支援となるよう情報交換や相談に努めている。地域の病院とは定期的な情報交換をさせて頂き、顔の見える関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様のおかれた状況について家族様と密に連絡を取り合い支援の方向について家族様・主治医・事業所で情報共有し取り組んでいる。	協力医の支援体制もあることから、ここでの対応が可能な場合は関係者との話し合いの機会を持つようにして、できるだけ看取りに取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命急救(AED使用)訓練を定期的に行っている。急変時の対応や連絡方法をマニュアルにし、勉強会を開催し周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難についてマニュアルを整備し勉強会で周知を行っている。階下への避難について実地の訓練を行っている。運営推進会議では立地条件等への対応や現状をお話しし理解を頂いている。	全体での訓練を1回、グループホームだけの訓練を1回実施している。3Fで非常時にエレベーターが使用できない場合もあるため、階段での避難訓練や夜間想定でも行っている。災害時は地域への場所提供や備蓄等の備えがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が大事にされている心情や思いに寄り添った声掛けを行うよう努めている。	3施設合同でもグループホーム独自でも研修を行っている。研修直後には意識していても忘れるので、気付いた時や個人面談、虐待チェックの時にも振り返りをするようにしている。介助時の声の大きさには気を配るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で又利用者様の表情言動を観察し、要望を伺ったりお誘いをするなどの働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様毎に違う過ごし方も個性ととらえご本人の納得・安心できる生活となるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様と相談しながら、利用者様が服選びをしやすくなるよう支援している。力に応じた声掛けや関わりを行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえやテーブル拭きなどを利用者様と行っている。季節に出てくる野菜の調理や、季節食としてのおやつ作りも出来るだけ利用者様に関わって頂き季節が感じ取れる様努めている。	誕生日には誕生日用の食事を作るようにしているが、普段は職員が1か月分の献立を作成し本部の栄養士にアドバイスを受けて作っている。皮むきや混ぜたり、盛り付けたりを利用者と一緒に行い職員が間に入りテーブルを囲んで食事を楽しむようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせた食事量・味付となるよう配慮している。好みに合わせた水分提供が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい・歯磨きの声かけを行っている。汚れの落ちにくいところを意識して磨いていただくよう、磨かれる様子を伺いながら声掛けをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄や失禁の変化に合わせてパット使用方法や使用量の検討を行っている。排泄行動の特徴を把握し、失敗の軽減を図っている。	尿意がある方は見守る形。重度になりオムツになった方でも回復に合わせて2人介助でトイレ使用を行うなど、個々に合わせた関わりを摂っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し軟便剤の使用について日々観察と検討を行っている。水分摂取状況の観察や朝食メニューにヨーグルト・きな粉を取り入れ、又食前体操を行うなどで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺い入浴していただいている。本人のペースで入浴できるよう関わっている。	介護度の軽い方が多い時にはほぼ毎日入浴していたが、重度化してきたため週2回のペースで毎日午後に行っている。浴槽に入れない方は2人介助でシャワー浴で対応。1対1でゆっくりと入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	場所を決めず、ご本人なりゆったりできるところで自由に休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬説明書をファイルにし、いつでも見られる形にしている。薬の管理・介助についての手順を決め安全に確実な服薬が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様のできる力や好み合わせ、ラジオ体操や家事作業、デイ利用者との交流支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様との外出が出来るよう支援している。天気の良い時は戸外の草花や畑を見に行けるよう支援している。	重度な方が多い為車での外出の機会は減ってきている。天気のいい日には裏の駐車場に出たり、南側のベランダに出て海を眺めて外気浴を楽しんでいる。また、面会の方を見送りながら外気を感じることで、気分転換に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の判断で少額のお金を所持されている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの手紙や贈り物があった時は電話でお話ができるよう取り次ぐなど配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節が感じられるものや写真を飾り自由に見られるようになっている。昔なじんだ童謡・唱歌などの音楽をかけて口ずさめるようにしている。	海のすぐ近くで3Fでもあり、どこからでも海のいい景色が見渡せるようになっている。不快に感じる騒音等はないが冬場は風が強い。ダイルームは陽の光が良く入り大変明るくなっており、季節を感じるように花を飾ったり、行事の写真を掲示したりくつろげるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人の気配を感じながらも、一人で過ごせる場所や少人数で膝を突き合わせるような近くで会話できる空間を設け、自由に使って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家での馴染みのものを持ってきていただくようお願いしている。又本人の状態にあった部屋となるよう家族様と相談させていただき、使いやすい部屋づくりに努めている。	馴染みのある物の持ち込みを薦めているが、あまり多くはない。小さ目のタンスやイス、テレビを置き、家族写真や自分で作った作品等を飾ったりして、1人の時間もゆっくり過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを分かりやすく表示している。必要に合わせ居室の取っ手に色テープで見やすいようにしている。		